

令和6年度福島県立石川高等学校 第2回学校運営協議会 開催記録

■日 時 令和6年7月29日（月）9：55～11：10

■場 所 石川高等学校 会議室

■参加者 委員

齋藤 一彦、水野 憲一、二瓶 伸一、佐川 正美、酒井 修三、石沢 泰蔵、
宗像 研也、熊井 トシエ、小川 和英

事務局（石川高等学校）

教頭、事務長、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、
地域連携推進担当、石川町高校魅力化コーディネーター

1 開会のことば 齋藤副会長

2 会長あいさつ 熊井会長

皆さんこんにちは。先日の第1回学校運営協議会においては、今年度の評価目標と、本会活動案について協議いただきました。

今年度は「石川高校を知る」という基礎の上に本会の活動を置き、本日は、学校からの提案について熟議する会となります。あらためて、石川高校と地域が連携した教育活動へと一層発展していけるよう、皆様のお力添えをいただきたく思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

3 校長あいさつ 小川校長

校長の小川でございます。ご多忙のところ、本校までお越しいただきありがとうございます。

さて、先週、猪苗代高校にて八校会が開かれ、1学年1学級の小規模校の校長が8人集まり、それぞれの校長先生方が熱い思いをお話されました。

只見、川口など山村留学を行っている学校等、学校の魅力化に力を入れている各高校の様子を拝見しました。

本校も、地域の方々の協力をいただきながら、県立石川高校らしい輝きをどのように光らせていくか、ご指導いただければと思います。

本日は第2回となります。本年度の運営協議会の方向性を協議してまいります。よろしくお願いいたします。

4 定足数確認 齋藤副会長

出席者9名、欠席者0名であり、定足数を満たしていることから、本協議会は成立していることを報告。

5 全体協議 議長：熊井会長

(1) 令和6年度学校運営協議会の成果目標及び活動案について

事務局より資料1及び別紙1～6に基づき説明。

(事務局説明要旨)

- ・ 前回は3つの部会に分かれ、今年度の成果目標や活動案について自由にご意見いただきました。その後6月の職員会議にて諮り、「石川高校を知ってもらおう」、「現況を地域に発信する」という骨子を踏まえ、あらためて成果目標及び活動案を提案する。
- ・ 資料1の訂正について。「2 成果目標」を「1」に、「1 活動案」を「2」に訂正。また、活動案(2)エ「福島大学生」の「福島」を削除。
- ・ 成果目標は、3つのカテゴリーに分け、①から⑦まで。※資料1
- ・ 活動案アについては、町外への往復時間や石川町のキャリア協定の改定等の課題もあるため、今年度は実施可能か検討する。
- ・ イについては、別紙1のとおり「社会貢献活動コンテスト」に3名既に応募したところ。
- ・ ウについては、県内に8校あるコミュニティスクールとオンラインでの交流が可能か検討する。
- ・ エについては、石川町が自治センターで複数の大学生と交流を行っており、1年生が「ひとくらす」を訪問時、福島大学生が興味を示し声がかかったことが発端。
- ・ オについては、別紙3のとおり7月25日に山形県の小国高校で開かれた全国小規模校サミットに本校から1年生5名・教職員3名が参加し、8県13校の小規模校と交流や意見交換を行った。
- ・ カについては、別紙4のとおりルーブリック表を用いて客観的な生徒の伸長を見える化し、探究活動の全体を把握・評価するもの。
- ・ キについては、別紙5のとおりキャリアチャレンジの企業による客観的評価を有意義に活用する。石川町内の実習先にそのまま入社した生徒も5名いた。
- ・ クについては、別紙6のとおり8月7日に石川郡内各町村の教育長を訪問予定。8月下旬には石川郡周辺の中学校を訪問予定。
- ・ ケについては、県に対し地域連携担当教諭1名の任用を要望するもの。1学級本校化が完成する令和8年度には教員が7名となることから、「いしかわWORK & LIFE」の運営維持や地域との連携が懸念されることが背景にある。

<質疑応答>

(石沢委員)

- ・ 「いしかわWORK&LIFE」は特色ある素晴らしい取組だと思うが、「キャリア探究」と「アカデミック探究」は並列なのか。選択の仕方は。

(事務局)

- ・ 2年から「キャリア探究」と「アカデミック探究」の2コースに分かれる。週1回終日事業所に赴き実習指導を受ける。「キャリア探究」コースを選択すると、キャリアチャレンジとして2年間3か所の事業所で実習を行う。「アカデミック探究」を選択すると、少人数で専門的な選択授業を受ける。成果は生徒間で共有する。
- ・ また、総合探究の授業がコースに関わらず1年から3年まで行われ、意見発表を行い生徒間で共有する。

(石沢委員)

- ・ 「キャリア探究」だからといって職業に寄りすぎるともったいない。就きたい職業と生き方は別だと思う。「アカデミック探究」が並列であるのは良いと思う。職業に関係なく探究してもらいたい。
- ・ 中学校でも職場体験を実施しているが、希望どおりにはならない。就きたい職業を体験するものではない。

(小川校長)

- ・ 実業高校と普通科高校とは異なる。地域と関わりながら職業の魅力も感じ、目線を広げ、自分の可能性を見つけてほしい。

(熊井会長)

- ・ 大勢の前で自分の思いを発表することが得意でない子もいるが、発表の仕方が段々上手くなっていると感じる。意識的に発表の場を作ることが大事だと思う。

(齋藤委員)

- ・ 定員40名を80名に戻すことは考えているか。

(事務局)

- ・ 県の計画で定員に満たない高校の統合を進めており、4クラス維持ができず交通機関が困難な場合等は1クラスでもよいとの動きがあり、本校も1クラスの学校としての存続が後期計画で決まった。2クラスへの要望は難しい。

(齋藤委員)

- ・ 現実的に増やすことは難しいと思うが、ますますネガティブになってしまう。目標として、生徒を集められるような学校が必要だと感じた。

(小川校長)

- ・ 40名で存続が認められた。全県及び地域の中学生の数や私立の募集枠もあり、全県的な計画に基づいている。

- ・ 川口、只見、猪苗代、川俣などは県外から集めており、フェンシングやスキーで呼び込んでいるが、本校はどのように魅力化を図り、石川郡、石川町を盛り上げていくか、将来的に本校に来たいという生徒がたくさんいることをアピールできれば議論に辿り着くかもしれない。

(石沢委員)

- ・ 県外入学は、完全寮制、寮生活の中で学習できる。広く周知して全国規模にしたから集まってきた。しかし、中学生の取り合いになるだけで、寮や施設の問題もあり、同じようにはできない。

(熊井会長)

- ・ 川口高校の山村留学について新聞記事で見た。成功している先進校の例ではないか。
- ・ 先生が減る中で魅力化のための工夫といっても大変だが、石川高校を選んでもらうために取り組んでいることをアピールしていかなければならない。

(齋藤委員)

- ・ 以前、県石は女子ハンドボールが強かったが、スポーツに特化するなどのアピールもある。

(酒井委員)

- ・ 定員を満たすための努力が必要。地域を大事にすることと人を増やすことは違うので難しい。全国的には漫画に特化した学校もある。地道に地域に根差した子を育てながら評判を上げ、定員を満たす学校にしていく方法もある。過渡期に来ている。

(石沢委員)

- ・ 専門学校化してしまうと人は集まるが、持続可能なのか、きちんと社会に人材を送り出せるのか、心配になる。

(小川校長)

- ・ 川俣のフェンシング、川口や只見の山村留学など特色化も良いが、特化するメリットとデメリットがある。8校会それぞれの戦略がある。本校の他校との違いは、地域と関連しながら社会に貢献する人材を輩出するキャリア教育である。何かに特化した場合、本校の目標とずれが生じないか。本校は少人数教育で、普通科らしく、輝ける自分を見い出して、社会に出ていける学校を目指したい。いきなり定員を増やすのではなく、まずは魅力化を再認識したい。

(熊井会長)

- ・ 小規模校サミットに参加した生徒たちの様子はどうだったか。

(事務局)

- ・ 午前には生徒同士のワークショップを行った。小国高の生徒が各グループに所属し、模造紙や付箋を使って手際よくまとめていた。本校生も次第に馴染んで立派に発表

していた。本校生からは2年生も参加した方がよいのではとの意見もあった。

(水野委員)

- ・ 小規模校サミットは今年で3回目。生徒が参加することで成長につながる。生徒が参画できる選択肢が増える活動、企業が学校に出向いて商品を紹介するなど、生徒が興味を持てるような選択肢を町としても増やしたい。石川町には旅館もある。地域資源を活用し、卒業後の進路、出口ベースの受け皿を用意し、故郷に帰ってきてもらえるよう、経験できる場を増やしていきたい。

今年度の成果目標及び活動案について、事務局提案のとおり進めることとして異議なく承認された。

(2) 第3回学校運営協議会の形式について

事務局より別紙8に基づき説明。

(事務局説明要旨)

- ・ 第3回は11月10日(日)本校公開文化祭の日。委員を拡大し、郡内の企業等にも参加を呼び掛け、意見交流会を開催したい。
- ・ 当日まで協議の場がないため、事務局で案を作成し、会長決裁により第3回の進行・運営を進めたい。
- ・ 当日は定点カメラを設置し、会議の様子をライブ配信したい。
- ・ 振興連絡協議会については、平成29年の発足後、本校の存続に向けてご支援をいただいていたが、1学級本校化で存続が決まり、区切りがついた。今年度からは本校教育環境の充実強化に尽力したいとの意見をいただいている。郡内首長等総勢67名の委員で構成されているが、この理念を踏襲して第3回運営協議会を開きたい。

<質疑応答>

(齋藤委員)

- ・ 石菜祭の際、フォーラム、講演会のようなものを開いてはどうか。

(事務局)

- ・ 意見交流会については、67名の委員に限らず、郡内各町村から10名以内の参加を考えている。
- ・ 講演会については、事務局で預かり、本校職員とも相談しながら進めたい。

(熊井会長)

- ・ 石菜祭では、子どもたちの生き生きとした様子を見ることができる。石菜祭をたくさんの人に見ていただければ、本校への理解も深まるのではと思う。

第3回運営協議会については、事務局提案のとおり進めるとともに、外部有識者の依頼や詳細な開催案については、会長決裁にて決することとして異議なく承認された。

6 その他

事務局より、傍聴の案内や会議録についてはホームページで公開することを説明。

7 閉会のことば 齋藤副会長